

日本海側拠点港 稚内港



強化機能： 国際フェリー
強化機能：国際定期旅客

平成23年7月

稚内港港湾管理者
北海道稚内市



港湾管理者名称	稚内市
関係者名称	稚内港日本海側拠点港検討委員会 稚内港の将来ビジョンを考える会 稚内港利用促進連絡会議 ロシア連邦サハリン州コルサコフ市
連携港湾とその港湾管理者の名称	なし

(関係者の概要)

- 稚内港日本海側拠点港検討委員会
- 稚内港の将来ビジョンを考える会
- 稚内港利用促進連絡会議

■ 極東ロシアに近接した
交通結節点

■ 極東ロシアとの
深い結びつきの歴史

■ サハリンプロジェクトとの
強い結びつき

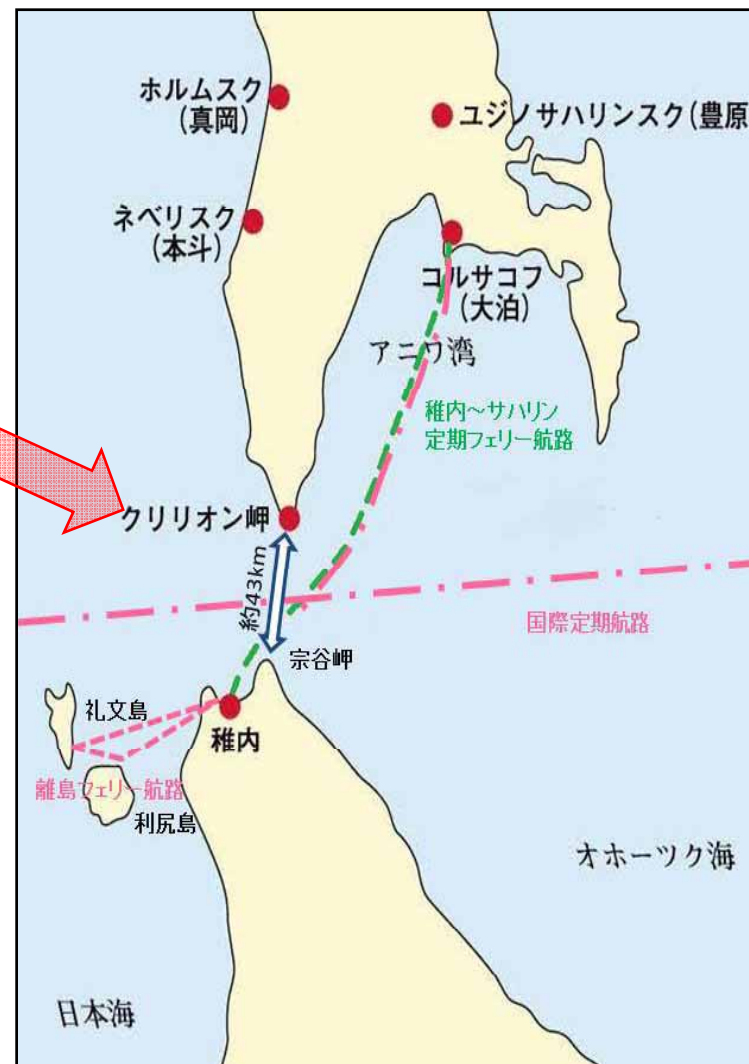
■ アジアへの展開の可能性

■ 新たな産業創出に
向けた取組



★ 日本最北の街「稚内」は東京から約1,000km、空路で1時間50分を要します。

★ 隣国のロシア領サハリン迄は最短距離で約43km、日本海側で最も近い交易の拠点、国際定期フェリー航路を有する国境に至近の街であります。



～ 最北の拠点港 稚内港から 世界へ 世界から 稚内港へ ～

■これまでの**極東ロシア**と**強い結びつき**を活かし日ロ友好関係を深める。

北海道と極東ロシアの経済・文化交流をより活発なものとする。

日ロ友好関係を深める先駆的地域としての重責を果たす。

■北海道と極東ロシアの経済、文化圏を中心として**アジアへの展開**を図る。

■北海道・極東ロシア間の良好なアクセスを確保するため**国際フェリーの機能強化**を図る。



■ 稚内サハリン国際定期航路の利便性向上

現状：6～9月・28便/年

2015年：通年・1便/週

2025年：通年・5便/週

■ ロシア船社との連携によるロシア本土・アジアとの貨物ルート形成

現状：協議中・トライアル実施

2012～2013年：連携航路開始



目標年次	稚内サハリン国際定期航路	ロシア船社連携
2010年実績	1995年航路開設以来運航を継続	稚内市とロシア船社の協議開始
2011年計画	運航期間：6～9月 便数：28便/年	7月24日トライアル実施 実施計画策定 関係者協議
2012～2013年目標	随時、運航期間延長・便数増加	連携運航開始
2014年目標		運航継続
2015年目標	運航期間：通年 便数：1便/週	
2025年目標	運航期間：通年 便数：5便/週	

■サハリンプロジェクト支援基地

■現状

- ・ 韓国経由ルートが太宗を占めるが、定時性が課題
- ・ 今年度、稚内サハリン国際定期航路を利用するケースが出現
- ・ 稚内経由ルートは価格・定時性・リードタイムに優位性

■今後の見込み

- ・ サハリンプロジェクト1, 2の出荷強化に向けた鉱区開発
- ・ サハリンプロジェクト3の新鉱区開発
- ・ 上記開発計画による 物資・技術の活性化による貨物・旅客の増加



■プロジェクトの展開

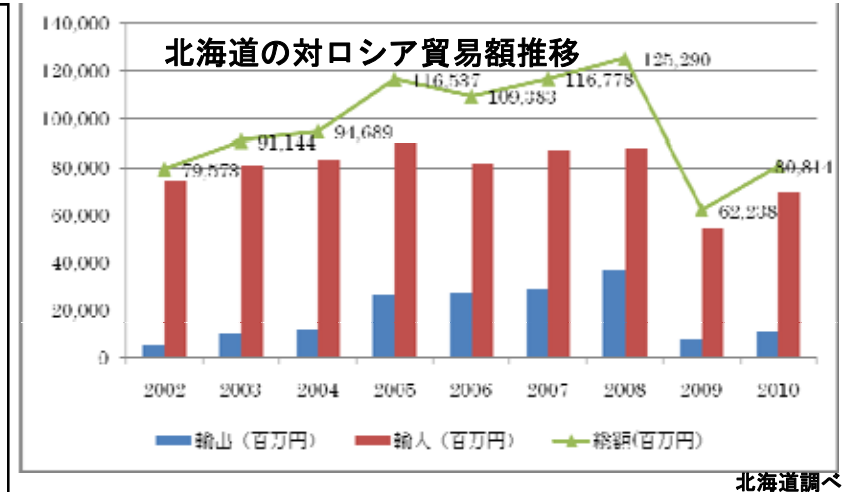
稚内経由ルートの確立 稚内サハリン国際定期航路を核とする



■ロシア・アジアとの貿易拠点

■現状

- ・ 極東ロシアとの**結びつき**が強い
- ・ ロシア経済回復による貨物増加の見込み
- ・ アジア向け地域水産物・加工食品輸出の可能性
- ・ ロシア船社との連携
- ・ ロシアから加工**原魚**安定確保の可能性
- ・ ロシア**農業生産**に関する連携



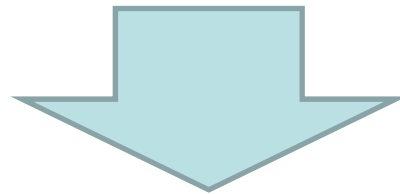
■プロジェクトの展開

- ・ 稚内サハリン国際定期航路の利便性向上
- ・ ロシア本土・アジアとの物流ルート形成
- ・ 物流高度化

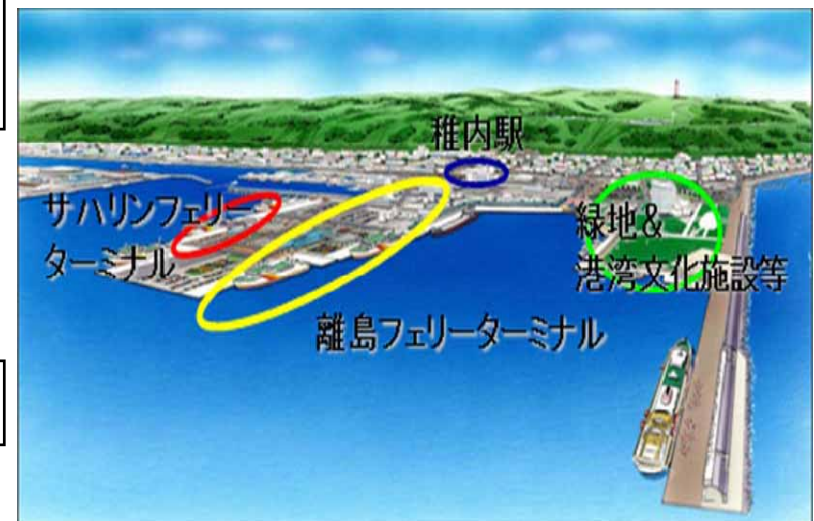
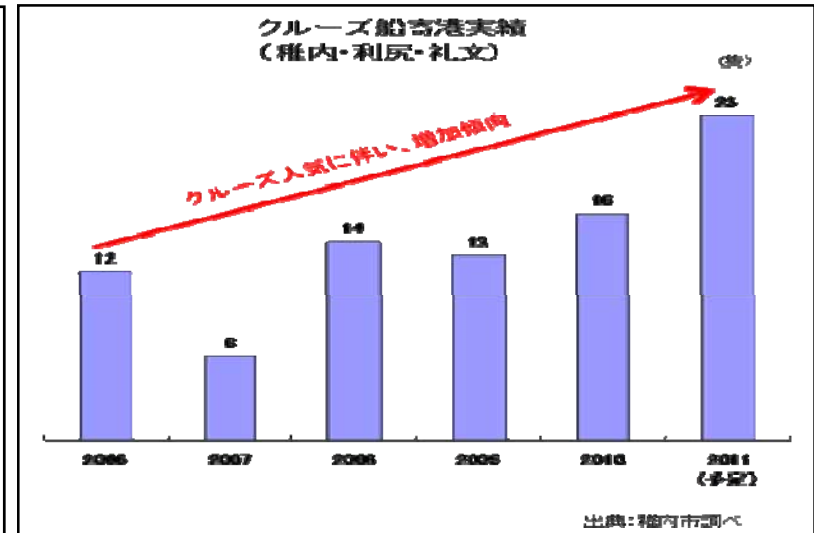
■ ロシア・アジアとの交流拠点

■ 現状

- ・ 古くからロシアとの**友好関係が深い**
- ・ 利尻・礼文・サハリン**観光の拠点**
- ・ **稚内マリンタウンプロジェクト**構想による最北の「国際交流拠点」形成
- ・ **市民参加型の活発な活動**
- ・ 観光・交流需要が増加傾向
- ・ 技術交流の文化交流の実施
- ・ ロシア人観光客誘致の取組が活発化

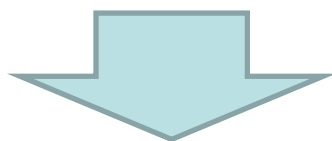


国際フェリーは**日ロを結ぶ重要な拠点**

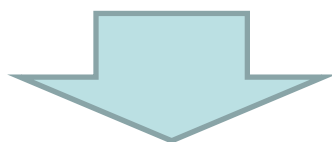


■ 油流出事故対策の重要な拠点 安定運航確保のための防災拠点（油防除基地）

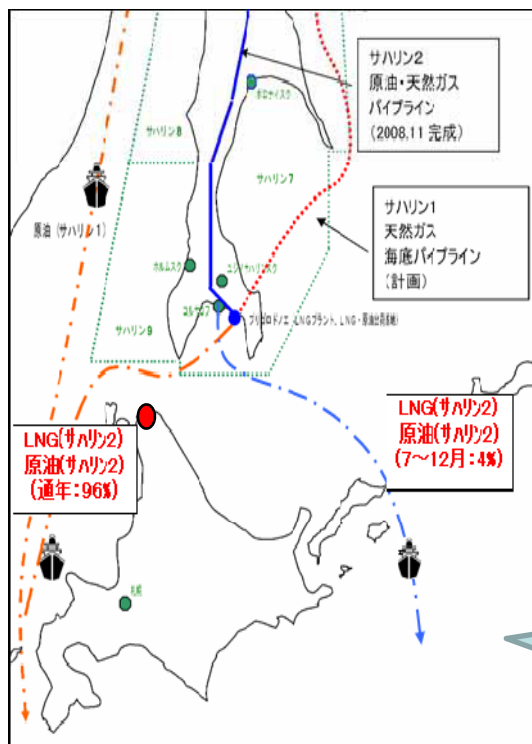
油流出事故のリスクが増大



油防除基地の形成



国際フェリーの安定運航
我が国のエネルギー供給安定



漁業被害約100
億円規模

■貨物量の目標（2025年）

- ・稚内コルサコフ航路
2025年の**貨物消席率** **70%**
(航路運営採算分岐点40%)

航路方向	品目	目標貨物量 (t/年)	消席率 (%)
稚内 コルサコフ	◆サハリンプロジェクト掘削資機材 ●中和剤(ISOタンク) : 13,500t/年 ●油井管・ドリル等その他の貨物 : 800t/年	14,300	31
	◆農産物 ●米 : 140t ●ばれいしょ : 4,720t ●たまねぎ : 1,200t/年 ●その他青果物 : 2,360t/年 ●乳製品 : 5,130t/年	13,550	29
	◆水産物 ●現状、道北地区から道央圏港湾経由でアジアに輸出されているものを稚内港利用にシフト。 : 4,000t/年 ●新たに地元企業が欧州向けに計画しているホタテ輸出を稚内港ルート。 : 200t/年	4,200	9
	◆加工食品・雑貨・その他 : 消席率10%(約4,700t)を目標	—	10
	◆建設資機材 : 3,000t/年	3,000	6
合計	※加工食品・雑貨・その他の貨物量は計上していない。	35,050	85
コルサコフ 稚内	◆サハリンプロジェクト掘削資機材 ●中和剤(ISOタンク)の空タンク : 13,500t/年	13,500	29
	◆加工原魚 : 2,000t/年	2,000	4
	◆水産加工品・鮮魚・加工食品・おがくず・製材・修理目的車両・建設機械・その他 : 消席率5%(約2,300t)を目標	—	5
	◆牧草 : 6,000t/年	6,000	13
	◆建設機械 : 2,000t/年	2,000	4
合計	※一部品目について貨物量は計上していない。	23,500	55
両方向合計	※一部品目について貨物量は計上していない。		70

※輸送可能量 : 46,800t/年(片道) 93,600t/年(便)
※目標消席率(航路運営採算分岐点) : 40%

■旅客の目標（2025年）

- ・稚内コルサコフ航路
2025年の**旅客消席率** **45%**
(航路運営採算分岐点40%)

国籍	目標設定シナリオ	目標旅客数 (人/年)	消席率 (%)
日本人	<ul style="list-style-type: none"> ●新規商品開発・PR拡大による観光ツアー需要増 ・今年度、「ビザ無し渡航商品」、「価格競争力のある商品」等の新たな商品開発により旅客需要が増加している。 ・上記商品について、試験的に道内のみを対象とした簡易な広告によりツアー募集を行ったが短期間で定員(70名)に達し、募集終了後の問い合わせも継続している(現在も)。 ・今後は、「離島観光との組み合わせ商品」、「クルーズとの組み合わせ商品」等の多様な商品開発を行いながら本州・アジアへのPR展開を行い需要増を図る。 ・同時にサハリンサイドの宿泊機能強化等の受入体制確保も進めている。 ・旅行代理店の事業予測では、これらの取組により、離島観光と同程度の旅客数確保が可能と判断している(離島航路2010年実績:45万人/年)。 ・目標設定については、1便当たり平均、2組のツアー(30人/組)を確保することとする。15,600人/年(離島航路の3%程度であり、大幅に安全側の設定である) ●ビジネス、個人観光等の個人旅行の需要確保 ・当面、現状ベースの利用者数を維持しつつ、航路の利便性向上による需要増を1.5倍と見込む。1,660人/年 	17,260	15
ロシア人	<ul style="list-style-type: none"> ●新規商品開発・PR拡大による観光ツアー需要増 ・前年度から航路PRを強化した結果、ロシア人利用者は増加傾向にある。 ・さらに、日本人向けツアー同様にビザ無し渡航が可能となれば、日常的な買い物ツアー実現の可能性が高い(本土からの需要も増加する)。 ・目標設定については、1便当たり平均、2組のツアー(30人/組)を確保することとする。15,600人/年 ●ビジネス、個人観光等の個人旅行の需要確保 ・当面、現状ベースの利用者数を維持しつつ、航路の利便性向上による需要増を1.5倍と見込む。4,100人/年 	19,700	17
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●アジア人向けツアーの開発により需要増を図る。 ・日本人の項で示した商品開発と同時に航空・クルーズ等の他の輸送モードとも連携したアクセスを形成する。 ・目標旅客数については、1便当たり平均、2組のツアー(30人/組)を確保することとする。15,600人/年 ●その他 ・サハリンプロジェクト従事者である欧米人やその他の国の個人旅行については、当面、現状ベースの利用者数を維持しつつ、航路の利便性向上による需要増を1.5倍と見込む。200人/年 	15,800	14
合計		52,760	45

※輸送可能量 : 115,960人/年(往復=便)
※目標消席率(航路運営採算分岐点) : 40%

- 既存施設活用によるフェリー運輸
- 隣接する耐震強化岸壁利用による
災害発生時の航路継続可能
- 貨物増加に伴うヤード拡張可能



港湾施設の利用状況

■ 現在までの取組み

- ・ 北海道・稚内市がサハリン事務所設置
- ・ 道産食品・旅客拡大事業を実施中
- ・ 平成22年度 アドバイザリー契約
- ・ ロシア船社との協議、トライアル実施
- ・ ロシアと稚内企業との合併会社「ワックル」の成長

■ コルサコフ港ターミナル計画



■ 今後の取組み

- ・ サハリン州コルサコフ市との連携
- ・ ロシア船社との協議継続・連携
- ・ C I Qの簡素化・協議
- ・ 航路基準の内航化
- ・ 貨物・旅客増大のマーケティング



■ ロシア船社 Fesco 定期貨物航路寄港

- ・ 平成22年度 **アドバイザー契約**
- ・ 平成23年7月24日 **釜山～コルサコフ間定期貨物船**が稚内に寄港
- ・ 極東ロシア・アジアへのトランシップ



トリアル船状況

■ ロシアへビザなし渡航

- ・ 2009年ロシア制度改正（72時間ビザなし）
- ・ 2010年1年間実績が無いいため、サハリン州政府が稚内にセールス
- ・ 2011年5月13日 地元旅行代理店が募集
- ・ 2011年6月7日 出国

※募集期間短いですが、76名が集まり、募集後の問合せが多数。**リピーター率**の高い観光商品



ビザなし渡航状況

■ 目標年次までの段階計画

目標年次	稚内サハリン国際定期航路	ロシア船社連携
2011年計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運航期間：6～9月・便数：28便/年 ・ 国際フェリー入港料・岸壁使用料全額減免 ・ マーケティング(集荷・集客)体制の構築・実施計画策定 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7月24日トライアル実施 ・ 実施計画策定 ・ 関係者協議 ・ 代理店業務の統一・連携 ・ CIQ体制の緩和・効率化
2012～2013年目標		・ 連携運航開始
2014年目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 随時、運航期間延長・便数増加 ・ マーケティング展開 ■ 新規制度・物流システムの導入 <ul style="list-style-type: none"> ● 航路基準 <ul style="list-style-type: none"> ・ 稚内コルサコフ航路内航基準化 ● 貨物関連 <ul style="list-style-type: none"> ・ 通関時間短縮 ・ 証明書の有効期間・コスト ・ 扱い品目の拡大・検査基準の緩和 ・ シャーシ・車両相互乗入 ・ 修理目的車両・建設機械入国規制緩和 ● 旅客関連 <ul style="list-style-type: none"> ・ CIQ手続の簡素化・短時間化 ・ 入国期間限定ビザ ● LCL対応 ● コールドチェーン対応 	・ 運航継続
2015年目標	・ 運航期間：通年・便数：1便/週	
2016～2017年目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 随時、運航期間延長・便数増加 ・ マーケティング展開 	
2025年目標	・ 運航期間：通年・便数：5便/週	

■ ルート形成アクションプログラム

1. 体制・役割分担の設定



2. 輸出入貨物の発掘



3. 物流システムの形成



4. 支援策等の要請



■ 計画実現に必要な予算

- ・ 本計画においては、**既存施設の有効活用**が可能であることから、新規の施設整備に係る大規模な**予算は不要**

■ 新規制度等の提案

- ・ 稚内サハリン国際定期航路 **内航基準化**
- ・ C I Q 簡素化・効率化

■ 港湾施設使用料等の優遇

- ・ 岸壁使用料の全額減免等を実施

■ 貨物関連で必要な事項

- ・ 通関時間短縮
- ・ 証明書の有効期限・コスト
- ・ 取扱品目拡大・検査緩和



■ 旅客関連で必要な事項

- ・ 手続きの簡素化・短時間化
- ・ 入国期限限定ビザ

■ 物流の効率化

- ・ リードタイムの短縮
- ・ サハプロ資材の適時適量供給
- ・ 生鮮品や衛生用品等の安定供給
- ・ 運航コスト削減・効率的なシフトや輸送による低コスト化

貨物量 年間約5万トン増加

■ 人流の促進

- ・ 運航期間延長・便数増加による交流機会の増加
- ・ CIQ手続の簡素化・ビザ無し渡航の拡大による旅行の快適化
- ・ 冬期間の運航により、北海道・日本サイドの冬期観光需要の拡大

旅客数 年間約5万人増加

■物流の経済効果

農産物の販売価格だけで

約104億円

■人流の経済効果

旅行費用による消費額は

約117億円

■サハリンプロジェクト支援による経済効果

日本・極東ロシア・北東アジアへのエネルギー供給

■環境の向上

- ・ 稚内港利用にシフトすることの**距離短縮**による環境負荷低減
- ・ 関連施設の**環境型導入**による効果

■港湾運営の民営化等

- ・ 岸壁・背後用地を含めた**国際フェリーターミナルの管理運営**を指定管理者へ